

70期生

3年生学年だより

豊中市立第五中学校 2023年1月18日(木) No.24

聞き取り学習をおこないました

16日(火)の5・6限に、とよなか人権文化まちづくり協会より重本さんをお招きし、部落問題についての聞き取り学習を行いました。五中出身である重本さんは、中学校時代にご自身が経験されたことや、身近な人が経験した結婚差別について、とても丁寧にお話ししてくださいました。

重本さんからは「どんな理由があっても差別をしてはいけない」、「差別の問題には社会全体で取り組んでいく必要がある」、「差別をしない、許さない人になって欲しい」といったたくさんのメッセージをいただきましたが、講演の間、しっかりと耳を傾けお話しに聞き入っているみなさんの姿が印象的でした。一部ですが、みなさんの感想文を紹介したいと思います。



と

～感想文より(一部抜粋)～

部落問題を身近に感じたことはなかったけれど、今回この話を聞いて他人事にしてはいけないなと感じた。部落出身だから差別されるとかは昔の話だと思っていたけど、今もなお続いているのだということが分かってこのまま放置しておいてはいけないなと思った。

卒業後、部落だけではなく、いろんな問題に積極的に取り組み、いろんな人に声をかけられる人になりたい。1人、1人の小さな意識で社会は変わると思います。

自分が将来、もしこういった問題にあったときに、正しい考えをもつためにも、今回お聞きしたことを大切にしたいと思いました。

将来、身近な人が差別を経験しないために、差別をなくしたいなと思いました。部落差別だけではなく、様々な差別がこの世の中にあるので、それを少しずつでもなくして、みんなが住みやすい町にできたらいいなと思いました。

重本さんのお話を聞いて、差別はみんなに関係があるし、差別についての知識を正しく学ぶことが大切だと気付きました。これからたくさんの人と関わる中で、部落差別などを間違っ
て覚えてしまっている人に「それはちがう」と言えるような人になりたいと思いました。また、正しいことを伝えるためにも、たくさんのことを学ぼうと思います。

昔から部落差別があり、自分は何も気にしてこなかったタイプで、改めて部落差別のしんどさや辛さを学びました。少しでも「おかしい」と言える人が増えていくと、社会がすぐ変わっていくというのがわかりました。

部落差別のせいで、悩んだり、傷ついたり、結婚したい人と結婚できない人がいるのは本当に良くないことだと思いました。部落について自分自身にできることはないかよく考えようと思いました。

インターネットは便利な反面、悪いうわさや間違っ
た情報が流れてきたりもするから、拡散などしないように注意しなくてはいけないと思った。自分は差別するつもりがなくても、何気ない一言で人を傷つけてしまうことがあるから、発言には注意しなければならないと思った。

これからは差別はしない！じゃなくて、差別は許さないの心構えをすることにしました。普段から自分の頭にこびりついている不安があるというのは、本当にしんどいと思うし、その不安と真正面から向き合う重本さんがかっこいいと思いました。



生まれたところだけで差別することの意味がわからないと思いました。これから僕たちのような世代の人にこのような話をして、部落について知っていくことが大切なんだなと思いました。僕は差別をしない人ではなくて、差別を止められるような人になろうと思いました。中学校を卒業しても人権を大切に生活して生きていきたいと思っています。

卒業した後も部落問題にふれる機会はあると思います。その時に正しい知識を持って、「差別をしない」ではなく「差別を許さない」と考えて、声を出せるようにしたい、差別をなくしていきたいと強く思いました。これからも差別については「自分事」として考えていこうと思います。貴重な体験になりました。